

令和5年度 防災・減災に関する県民意識調査結果

1 調査の目的及び集計結果の概要

(1) 調査の目的

- 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の令和4年度の実績の把握
- 運動を進める上での課題の抽出や、その解決策の検討

- (ア) 対象者 : 県内在住の満18歳以上の男女5,000人
 (イ) 調査期間 : 令和6年2月20日(火)～3月15日(金)
 (ウ) 有効回答数 : 2,236件 (回答率44.7%)

(2) 集計結果の概要

① 全体指標

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R5 (目標)	R7 (目標)
	R5 (2月)	R6 (2月)		
5つの行動目標(②)を全て実践している人の割合	26.3%	30.5%	38.0%	50.0%
避難の準備行動(①かつ②)ができている人の割合	8.4%	9.9%		

【参考】「避難の準備行動ができている」の構成要素

①	【行動する】	マイ・タイムラインの作成
②	【知る】	災害の種類に応じた、避難場所・避難経路の確認
	【察知する】	災害リスク情報を自ら入手するためのツールを確保
	【行動する】	防災教室・防災訓練への参加
	【学ぶ】	非常持出品を用意し、かつ3日分以上の食糧及び飲料水を備蓄

② 個別指標

行動目標	行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R5 (目標)	R7 (目標)
		R5 (2月)	R6 (2月)		
知る	災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	72.4%	62.9%	93.7%	100%
	水害・土砂災害リスクの認知度	70.2%	70.5%	92.0%	100%
察知する	災害リスク情報を自ら入手するためのツールを確保している人の割合	77.1%	81.5%	60.0%	80.0%
行動する	マイ・タイムラインを作成している人の割合	13.0%	17.6%	44.0%	60.0%
行動する・学ぶ	防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	46.2%	60.6%	54.0%	60.0%
備える	非常持出品を用意し、かつ3日分以上の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	55.8%	60.3%	63.8%	70.0%
	家具等の転倒防止を行っている人の割合	56.9%	64.7%	62.7%	70.0%

2 集計結果の分析等

調査の集計結果について、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動推進会議の委員である有識者2名から、防災や社会心理学の観点での分析や示唆をいただいた。

(有識者) 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 坂田 桐子 氏(社会心理学)

山口大学大学院創成科学研究科 准教授 瀧本 浩一 氏(防災)

3 行動計画に掲げる成果指標ごとの分析概要

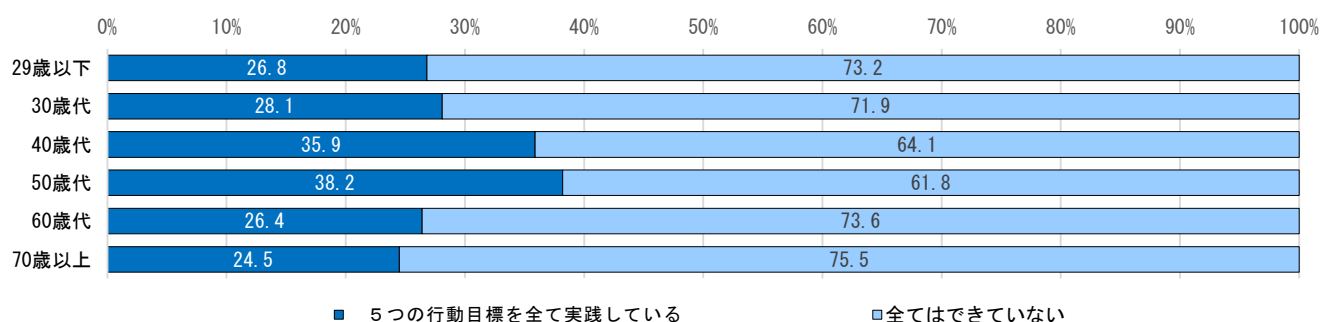
(1) 全体指標

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R5 (目標)	R7 (目標)
	R5 (2月)	R6 (2月)		
5つの行動目標(②)を全て実践している人の割合	26.3%	30.5%	38.0%	50.0%
避難の準備行動(①かつ②)ができていない人の割合	8.4%	9.9%		

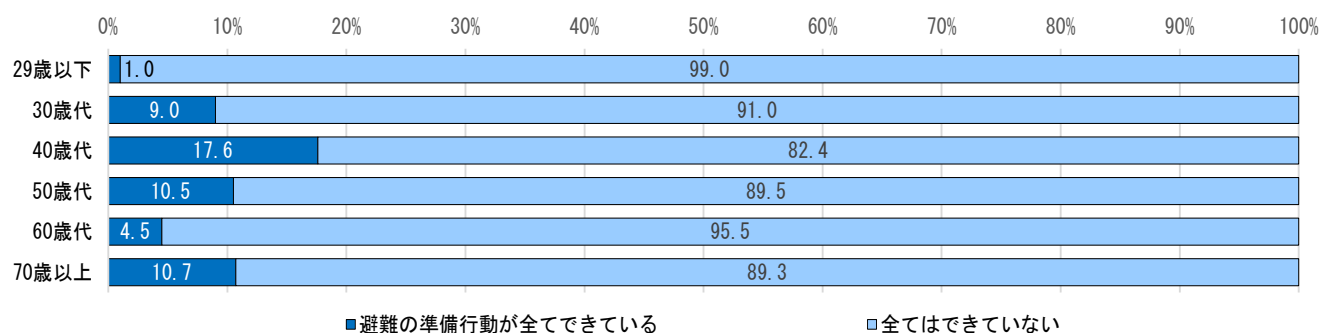
○ 5つの行動目標を全て実践している人の割合について、年代別では「40歳代(35.9%)」、「50歳代(38.2%)」で高くなっている。

○ 避難の準備行動ができていない人の割合について、年代別では「40歳代(17.6%)」で高くなっているが、全体的に避難の準備行動が全てできていない人は少ない。

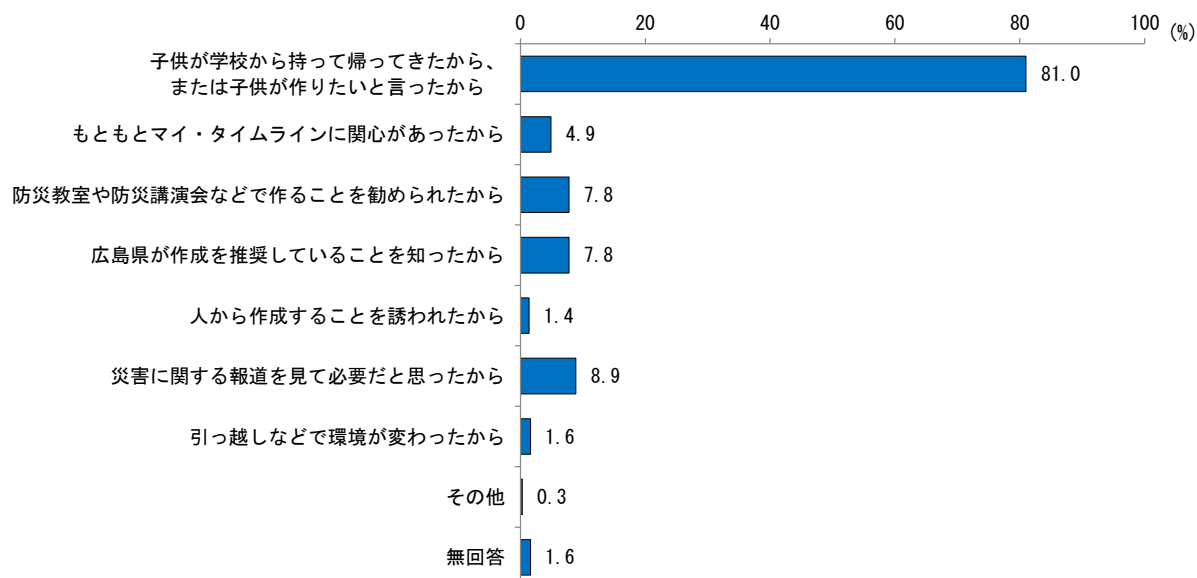
<5つの行動目標を全て実践している人の割合「年代別」>



<避難の準備行動ができていない人の割合「年代別」>



<マイ・タイムラインの作成のきっかけ>



ア 有識者による分析や示唆など

- マイ・タイムラインの作成のきっかけとして「子供が学校から持って帰ってきたから、または子供が作りたいと言ったから」が最多であることから、40歳代の子育て世代が、避難の準備行動ができている人の割合において最も高いという結果になっていると考えられる。
- その要因として、小中学校の児童・生徒を持つ子育て世代は学校とのつながりが強いため、学校での防災教育の効果が波及していると考えられる。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 避難の準備行動ができている人の割合は、5つの要素（個別指標）によって構成されているため、取組等については個別指標の項目において記載する。

（２）【行動目標】身の回りの災害危険箇所などを「知る」

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R5 (目標)	R7 (目標)
	R5 (2月)	R6 (2月)		
災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	72.4%	62.9%	93.7%	100%
水害・土砂災害リスクの認知度	70.2%	70.5%	92.0%	100%

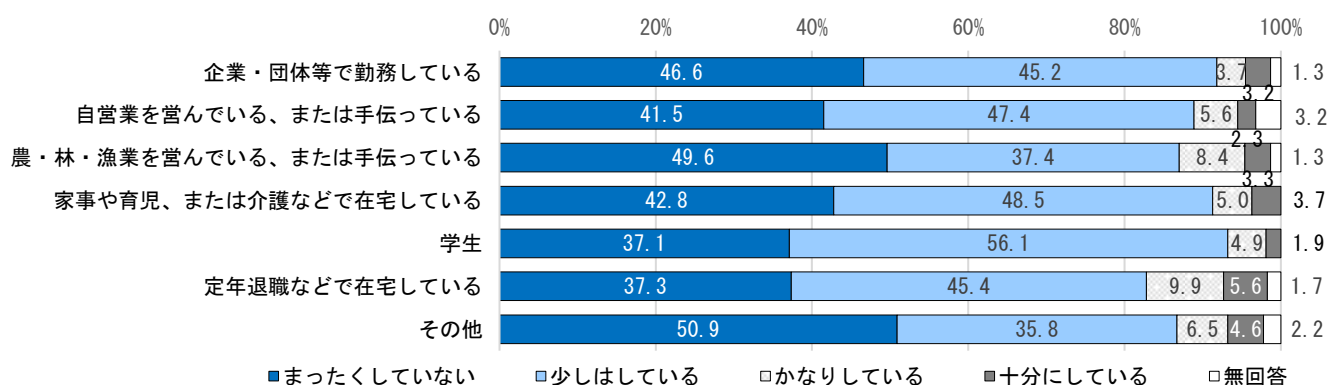
- 避難場所・避難経路を確認した人の割合について、生活形態別（※）では、「学生（62.9%）」、「定年退職などで在宅（60.9%）」で高くなっており、「農林漁業（49.1%）」で低くなっている。

○ 水害リスクの認知度について、年代別では40歳代以上で7割超と高くなっており、29歳以下(56.9%)では低くなっている。

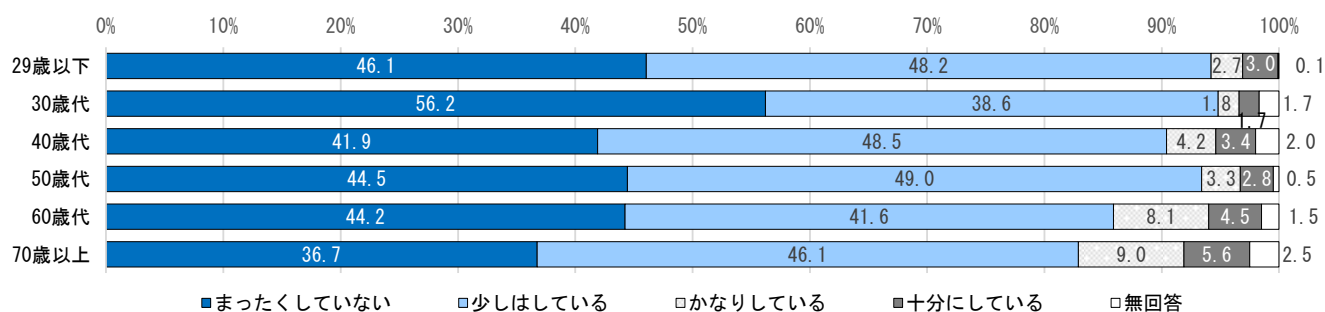
○ 土砂災害リスクの認知度について、年代別では60歳以上で7割超と高くなっている。

※ 生活形態の分類 ～ 「企業・団体勤務」、「自営業」、「農林漁業」、「家事や育児で在宅」、「学生」、「定年退職などで在宅」

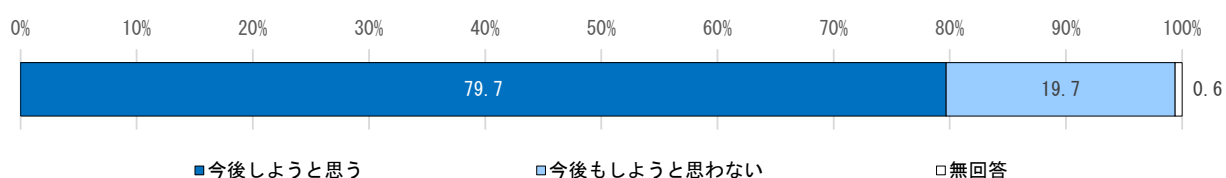
<避難場所や避難経路の確認の有無「生活形態別」>



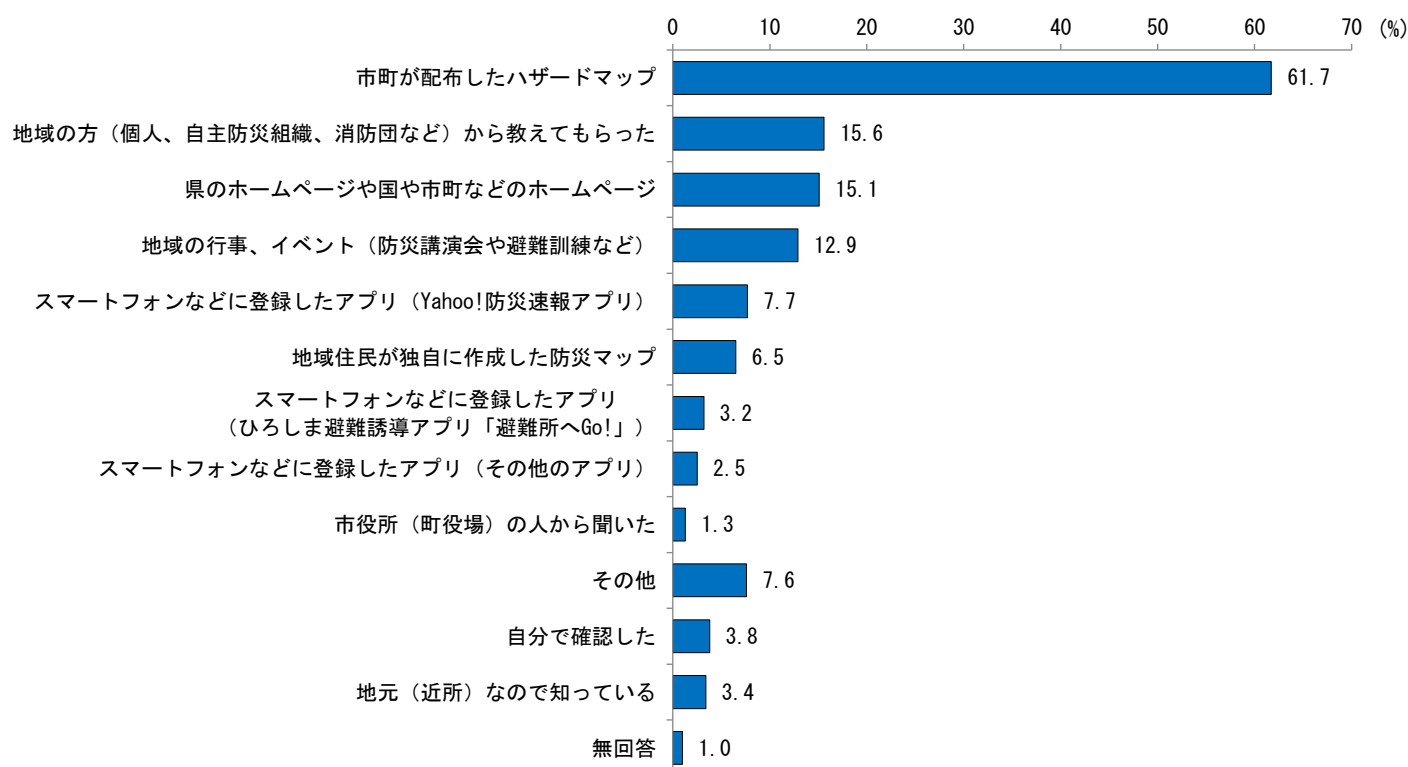
<避難場所や避難経路の確認の有無「年代別」>



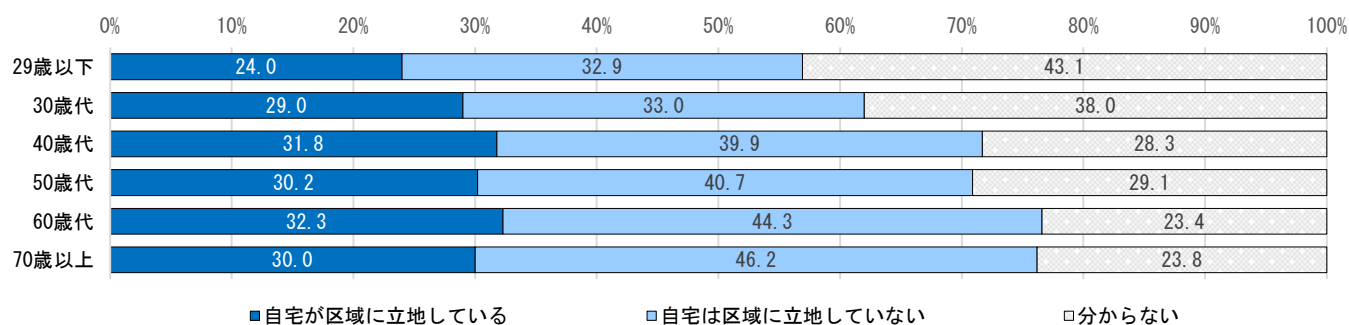
<今後、避難場所や避難経路を確認するか>



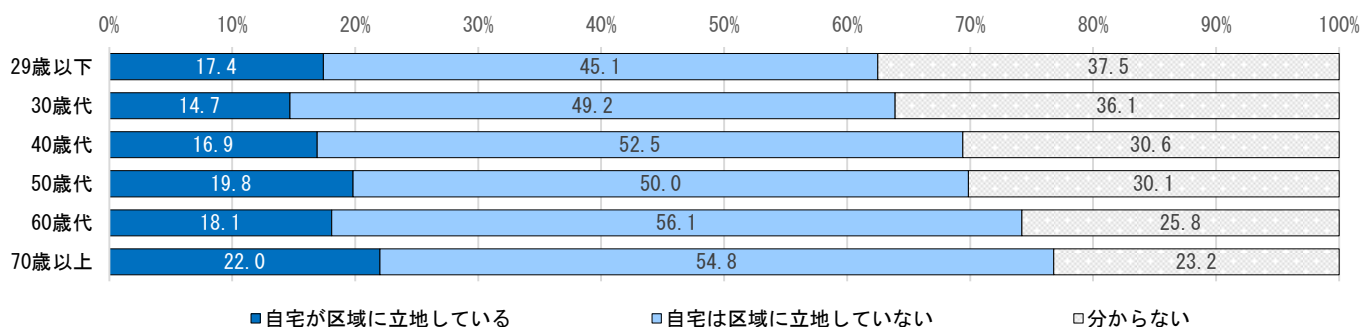
<避難場所や避難経路の確認方法>



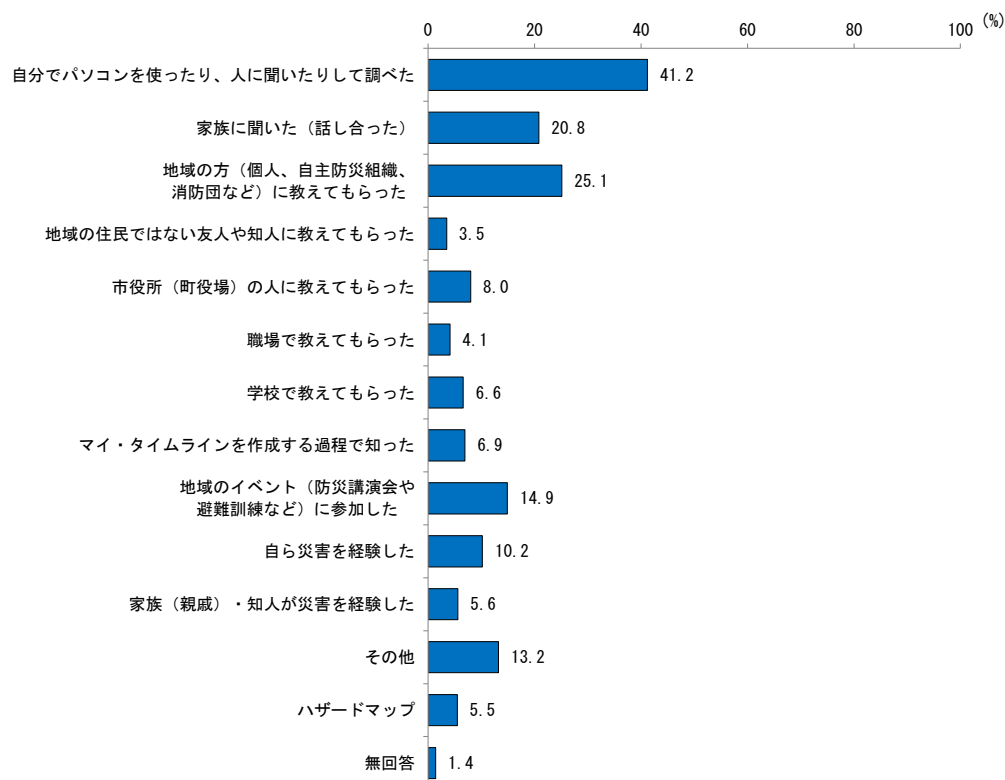
<洪水浸水想定区域の認知度「年代別」>



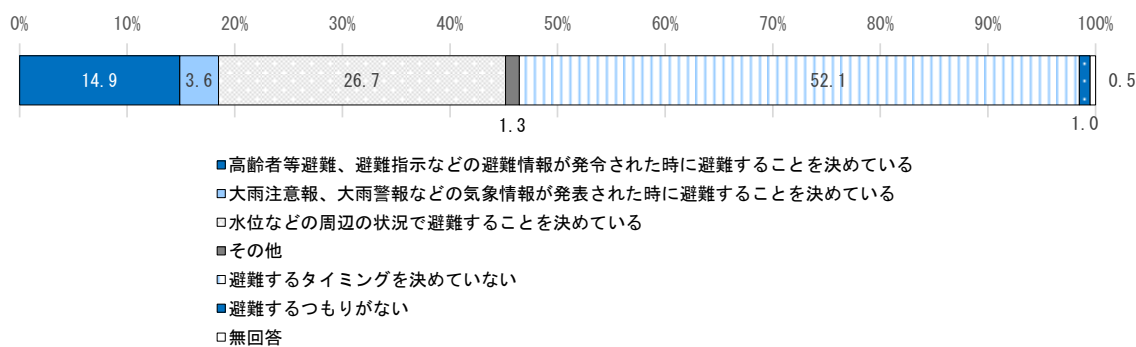
<土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の認知度「年代別」>



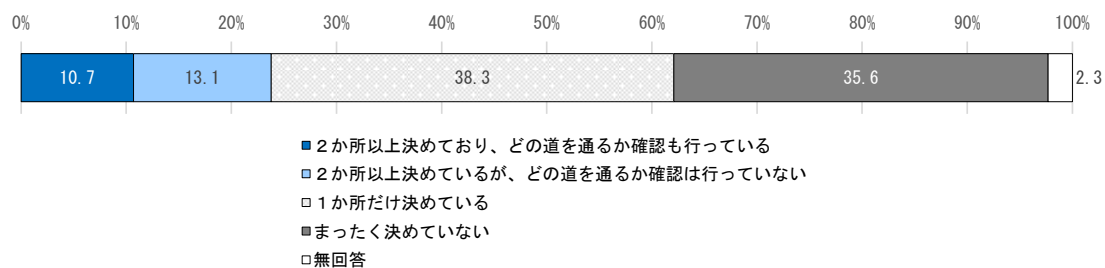
＜災害の危険性の有無を知ったきっかけ＞



＜事前に避難のタイミングを決めているか＞



＜避難先を2か所以上決めているか＞



ア 有識者による分析や示唆など

- 災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合が昨年度より低下し、「避難するタイミングを決めていない」人や「複数個所の避難場所」を「まったく決めていない」人も増えていることから、避難に関する意識がやや低下していると考えられる。
- これは、令和5年度に県内で大きな人的被害をもたらすような豪雨災害が発生していないことから、やや危機感が薄れ、実際に避難をするための準備行動が全体的に低下した可能性がある。
- ただし、避難場所や避難経路の確認を「今後しようと思う」人が79.7%を占めているため、避難場所・避難経路確認のきっかけとなるよう、啓発を続ける必要がある。
- 避難場所や避難経路の確認の有無では、30歳代を中心に確認ができていないが、これについては、例えば企業や事業所等が自社の社員へ、リスクへの認識向上や避難所の確認等の啓発を行うことで、高めることが可能である。
- 水害・土砂災害リスクの認知度は横ばい状態で、20歳代・30歳代で知らない人の割合が大きい。これらの世代が知ったきっかけとして、「学校で教えてもらった」の割合が大きい。一方で、「地域の方に教えてもらった」「地域のイベントに参加した」の割合が他の年代より低く、地域との交流が少ないと推測されることから、学校でハザードマップの確認を促すことや、マスメディア・SNS等で居住地域のリスク確認を促すことが有効に働く可能性がある。
- 災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合と、水害・土砂災害リスクの認知度については、意識を持っている県民の多くが既に認識済みであり、頭打ち状態であるとも考えられる。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 企業や事業所等に対し、自社の社員へ、災害リスクへの認識向上や避難所の確認等の啓発を行うよう働き掛ける。
- 小学校への防災出前講座を継続して実施するとともに、中学校での防災eラーニング教材の活用を促進する。
- マスメディアやSNSを通じて、自宅周辺の災害リスクの確認を促進する。
- 一斉防災教室への参加を広く呼び掛け、県が提供する動画教材の活用などにより、避難場所や避難経路の確認を促進する。
- 市町や自主防災組織、防災リーダー等と連携して、災害時の避難の呼びかけと個人の避難行動を一体的に確認する「地域防災タイムライン」を活用した避難訓練などの実践的な取組を実施し、災害時の避難行動や避難場所・避難経路の確認を促進する。

- 土砂災害警戒区域のある全ての小学校区に設置した災害リスクや避難所等
を示した標識やAR等を有効に活用して情報発信を進める。また、SNS等の効
果的な手段により、土砂災害啓発・伝承プロジェクトを推進することで、災
害リスクへの関心を高めるよう取り組む。

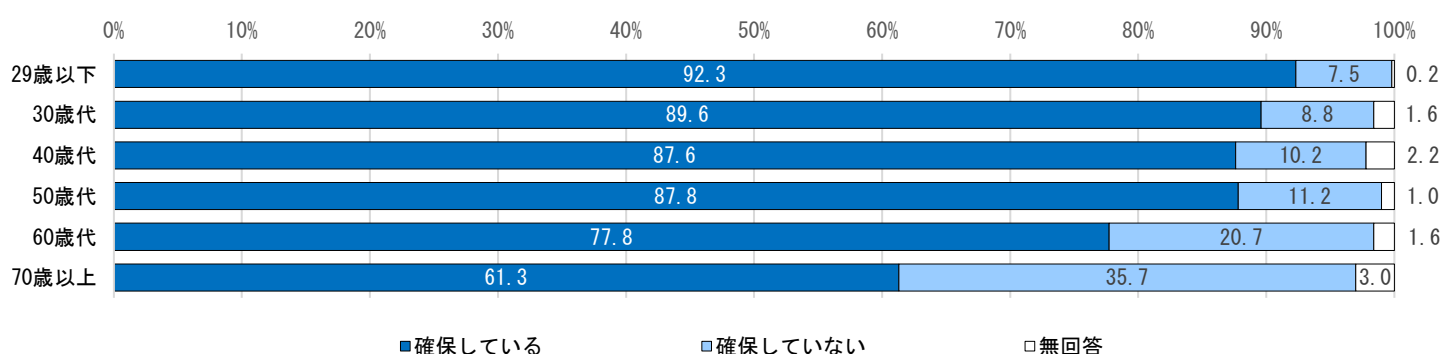
(3)【個別指標】災害発生の危険性をいち早く「察知」する

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R5 (目標)	R7 (目標)
	R5 (2月)	R6 (2月)		
災害リスク情報を自ら入手するためのツール(※)を確保している人の割合	77.1%	81.5%	60.0%	80.0%

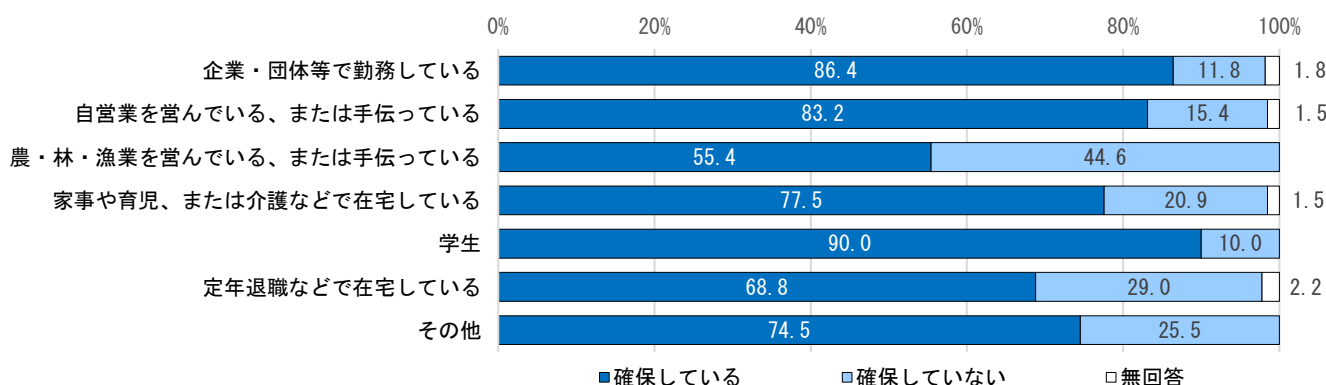
※防災情報メールや防災情報アプリ、SNS など

- 災害リスク情報を入手するためのツールを確保している人の割合について、
年代別では「29歳以下(92.3%)」、「30歳代(89.6%)」、「40歳代(87.6%)」、「50歳
代(87.8%)」で約9割と高くなっており、生活形態別では「学生(90.0%)」で高
くなっている。

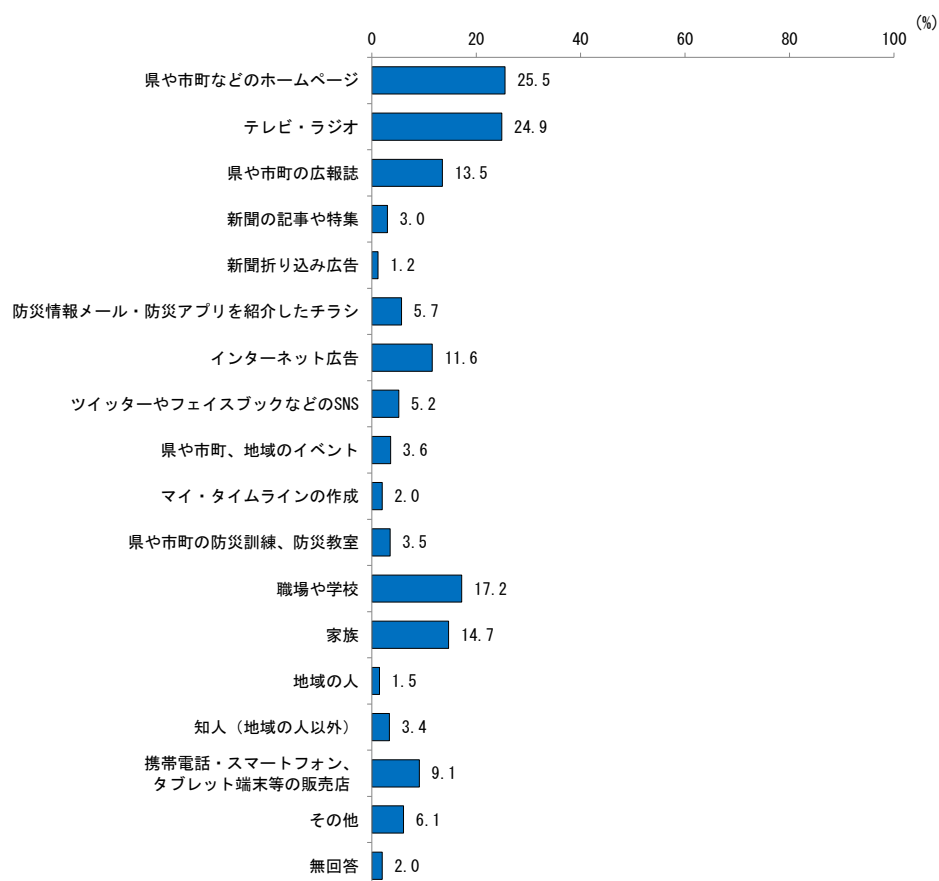
<災害リスク情報の入手ツールの確保「年代別」>



<災害リスク情報の入手ツールの確保「生活形態別」>



＜防災情報メール、防災アプリなどを登録したきっかけ＞



ア 有識者による分析や示唆など

- 災害リスク情報の入手ツールを確保している人の割合が増加しているが、これは関係機関などによる周知活動の成果といえる。
- 防災情報メールなどの登録のきっかけとして、「テレビ・ラジオ」と「県や市町のホームページ」を選択した人が、いずれも令和3年度の10%強から25%程度に増えており、マスメディアによる広報や市町の情報発信が、ツールの入手推進に役立っていることが伺われる。
- 60歳代以上については伸び悩んでおり、高齢者に対しては、周囲の人が情報を提供し、支援するための仕組みづくりが重要と考えられる。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- ツールの確保を促進するため、引き続き、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動推進会議の構成団体等と連携し、テレビ・ラジオなどのマスメディアや、市町の広報誌等、様々な媒体を通じて広報する。
- 災害の危険性が高まった際のプッシュ通知機能を備えた「LINE版マイ・タイムライン」の普及を促進する。

○ 情報入手ツールの確保が難しい高齢者等に対しては、引き続き自主防災組織による避難の呼びかけ体制の構築・実践に取り組む。さらに、地域防災タイムラインを活用し、呼びかけの実践とマイ・タイムライン作成を一体的に進め、地域全体での適切な避難行動を促進する。

○ 高齢者等に対して、AI による音声対話が可能な技術を活用し、避難の呼びかけなどを行うことができる仕組みづくりを検討していく。

(4) 【個別指標】自ら判断して適切に「行動する」及び
防災教室や防災訓練などで「学ぶ」

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R5 (目標)	R7 (目標)
	R5 (2月)	R6 (2月)		
マイ・タイムラインを作成している人の割合	13.0%	17.6%	44.0%	60.0%
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	46.2%	60.6%	54.0%	60.0%

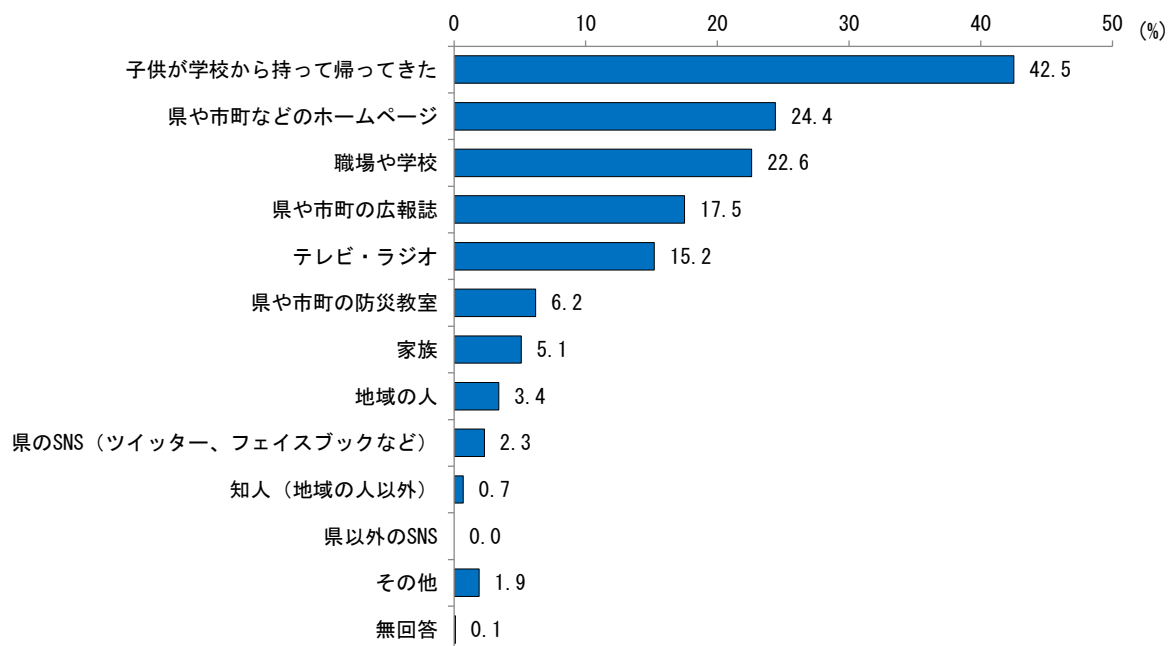
○ マイ・タイムラインを知ったきっかけとして、「子供が学校から持って帰ってきた(42.5%)」が最も高くなっている。

○ マイ・タイムラインを作成していない理由として、「マイ・タイムラインを知らなかった(63.3%)」が最も高くなっている。

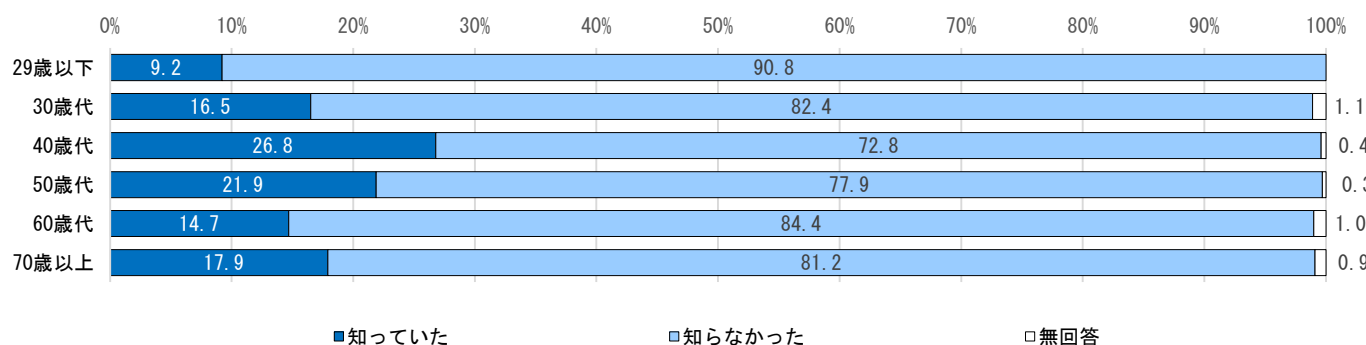
○ 防災教室・防災訓練への参加割合として、生活形態別では「学生(83.6%)」で高くなっており、「農林漁業(46.6%)」で低くなっている。

○ 防災教室・防災訓練に参加しなかった理由として、「仕事や家事、育児で忙しかったから(26.2%)」が最も高く、次いで「具体的にどのようなことをするものなのか分からないから(17.6%)」となっている。また、「仕事や家事、育児で忙しかったから」は「自営業(39.1%)」で高く、「実施していることを知らなかったから」は「家事や育児で在宅(53.1%)」、「企業・団体勤務(52.6%)」で他の生活形態と比べて高くなっている。

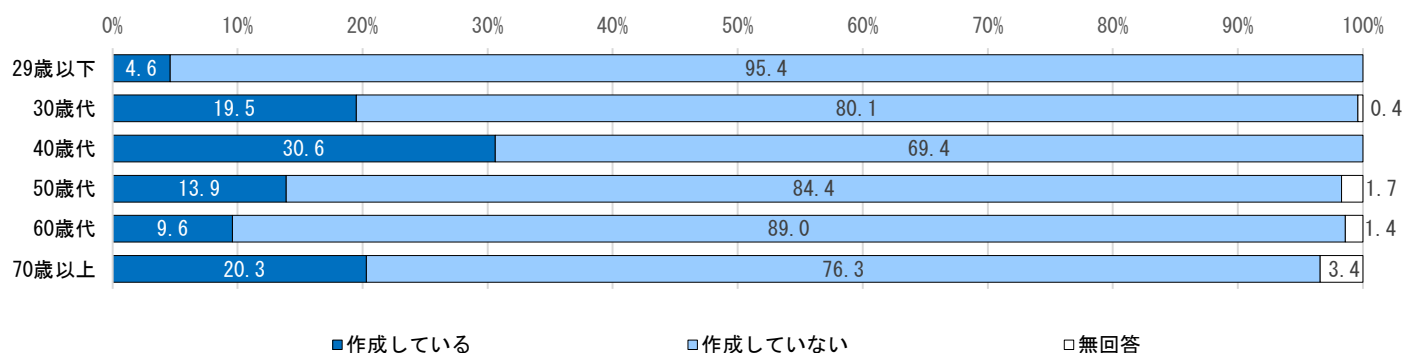
<マイ・タイムラインを知ったきっかけ>



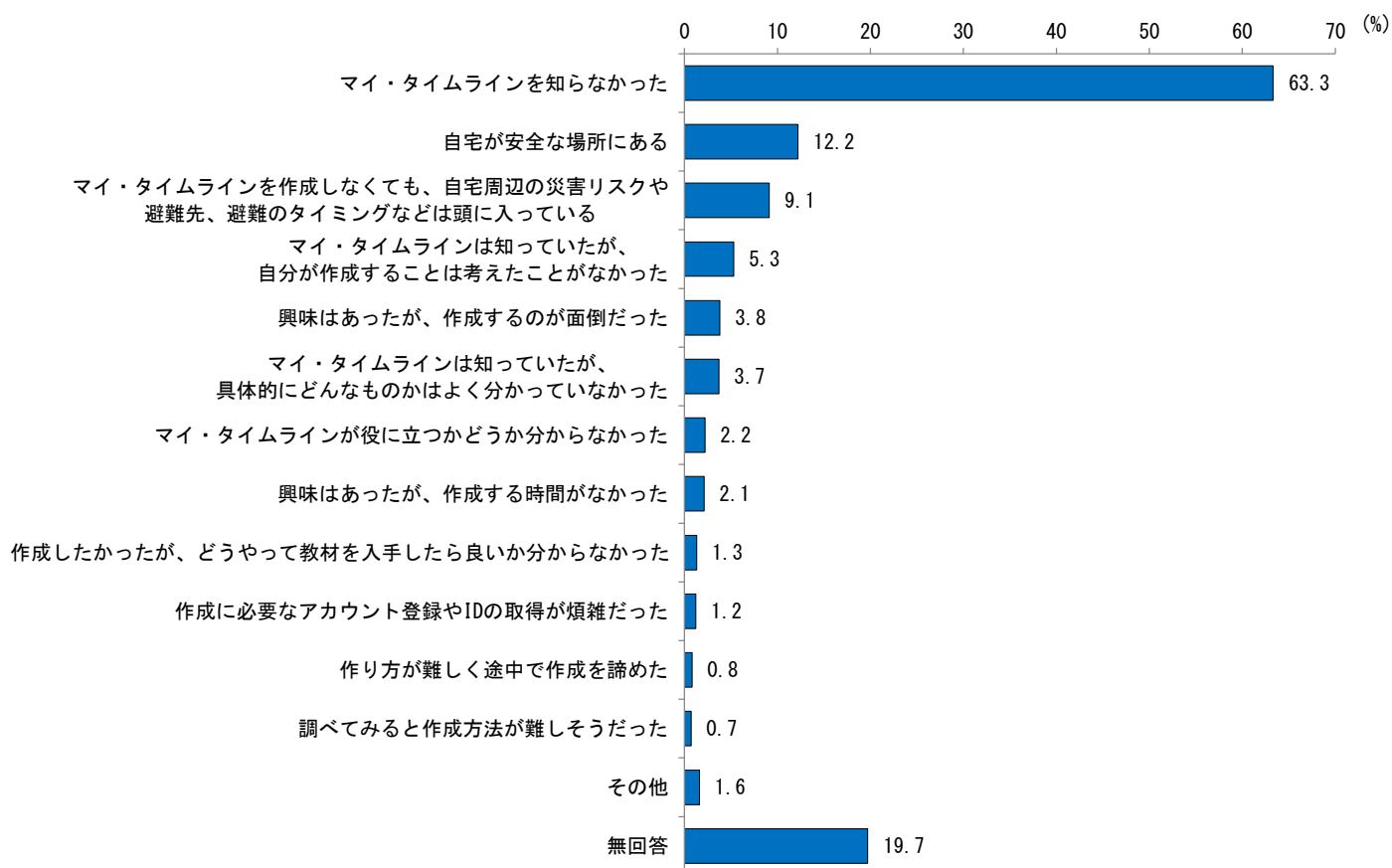
<マイ・タイムラインの認知度「年代別」>



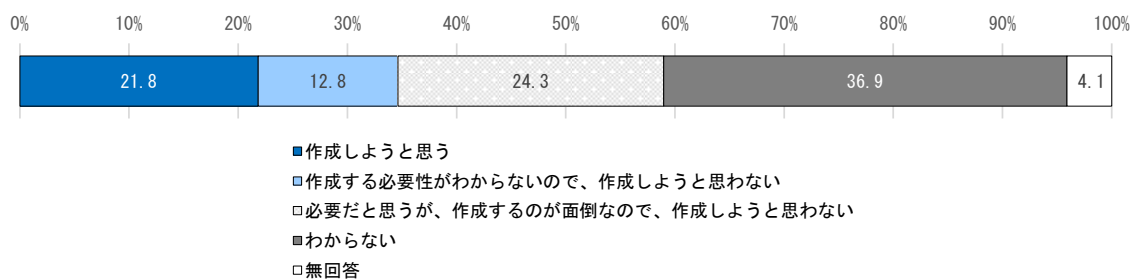
<マイ・タイムライン作成の有無「年代別」>



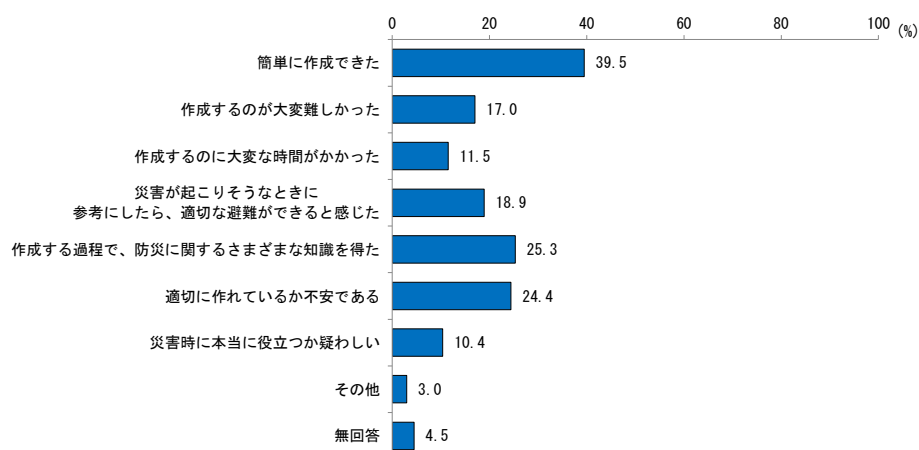
＜マイ・タイムラインを作成していない理由＞



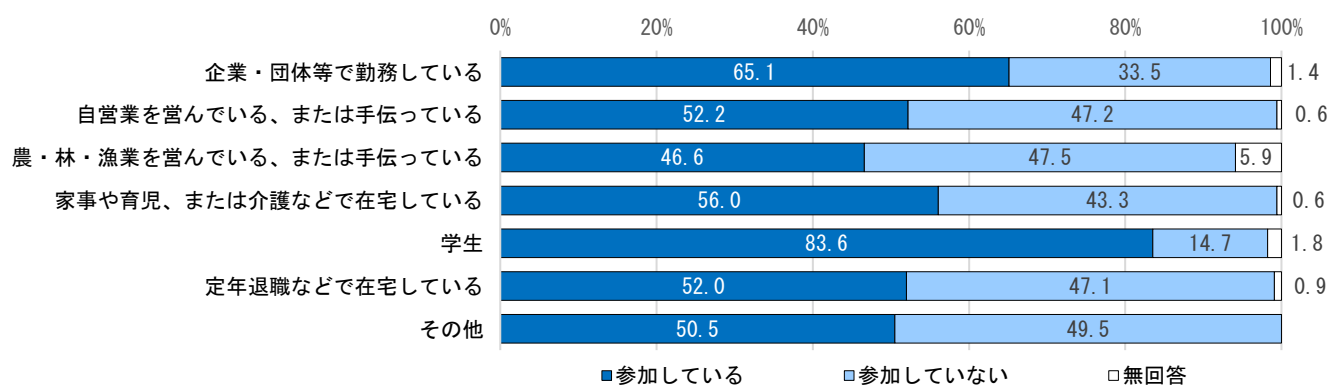
＜これからマイ・タイムラインを作成しようと思うか＞



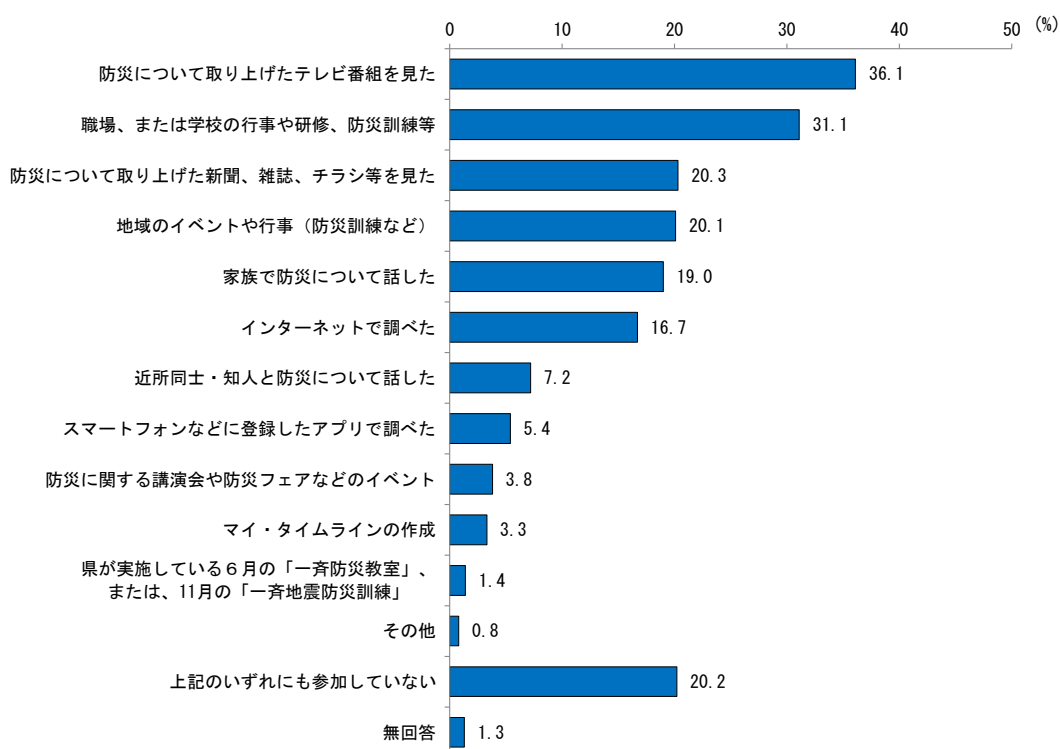
＜マイ・タイムラインを作成してどう感じたか＞



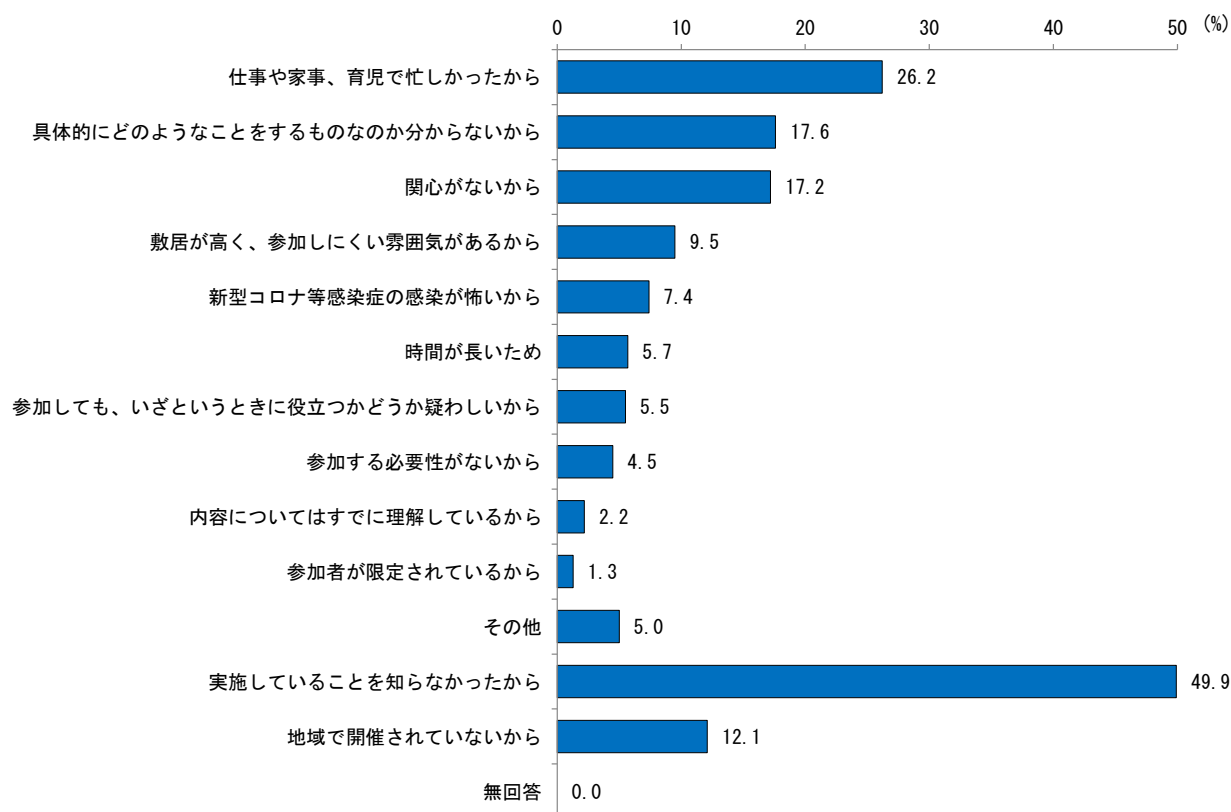
<防災教室・防災訓練への参加状況「生活形態別」>



<防災教室・防災訓練の参加した内容>



＜防災教室・防災訓練に参加しなかった理由＞



ア 有識者による分析や示唆など

- マイ・タイムラインの認知度が低いことに加え、「これからマイ・タイムラインを作ろうと思う」人の割合が21.8%と低いことが問題である。また、「わからない」人の割合が36.9%にのぼっており、まだマイ・タイムラインの有効性が周知されていないと思われる。
- マイ・タイムラインを作成した人の意見には、「作成過程で防災に関する知識を得た」「適切な避難ができると感じた」といった肯定的な意見も多いことから、周知にあたっては、適切な避難ができるという直接的なメリットだけでなく、作成過程で防災に関する知識を得ることができるなどのメリットも併せて伝えることが有効かもしれない。
- マイ・タイムラインを知ったきっかけとして、20歳代は「職場や学校」、50・60歳代は「県や市町のホームページ」「テレビ・ラジオ」が多いため、多様な手段による啓発や周知を強化することで、あらゆる世代での認知度が高まると思われる。
- 防災教室・防災訓練へ参加した人の割合が大きく増えており、特に「職場や学校での研修や訓練等」「地域の防災教室や防災訓練」への参加が増えていることから、新型コロナがある程度収束して、このようなイベントの開催頻度が高まった可能性がある。また、職場や学校での研修や訓練の実施が、参

加率の向上に有効であったと推測される。ただし、参加しなかった理由として「実施していることを知らなかった(49.9%)」が最も多いため、引き続き開催の周知に注力する必要がある。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 引き続き、マイ・タイムラインを活用した小学校での出前講座に取り組むとともに、中学校向けの防災 e ラーニング教材の活用を促進する。
- 簡易にマイ・タイムラインを作成できる LINE 版マイ・タイムラインの普及を進め、マイ・タイムラインの認知度向上と作成促進を図る。
- 市町や自主防災組織、防災リーダー等と連携して、地域防災タイムラインを活用した避難訓練などの実践的な取組を実施し、災害リスクを確認できるツールとしてのマイ・タイムラインの活用を促すとともに、災害時の避難行動や避難場所・避難経路の確認を促進する。
- 一斉防災教室の参加促進に際しては、教材であるマイ・タイムラインの作成の過程において、様々な防災知識を得ることができるなど、マイ・タイムラインの有効性についても広報する。
- 企業や学校、関係団体を通じて、一斉防災教室・一斉地震防災訓練への参加を働きかける。
- 市町や関係団体と連携した広報等により、防災教室・防災訓練の参加を促進する。

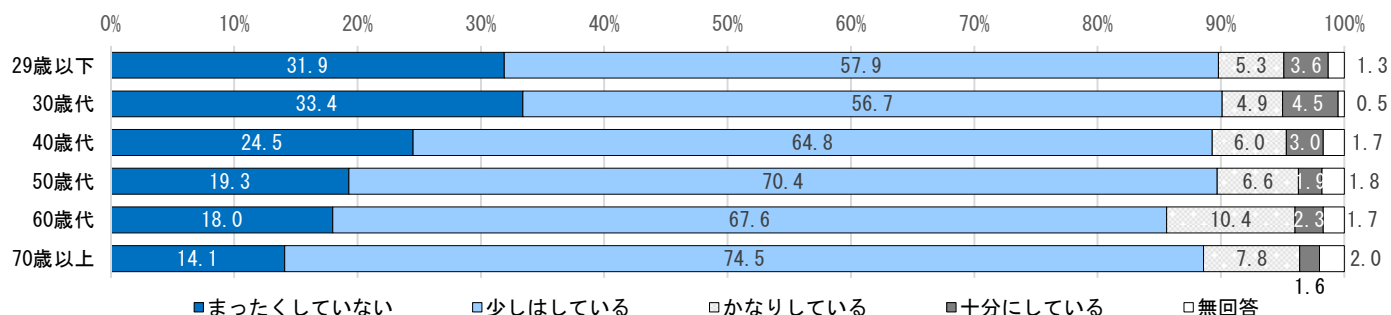
(5) 【個別指標】非常持出品等を準備するなど災害に「備える」

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R5 (目標)	R7 (目標)
	R5 (2月)	R6 (2月)		
非常持出品を用意し、かつ3日分以上の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	55.8%	60.3%	63.8%	70.0%
家具等の転倒防止を行っている人の割合	56.9%	64.7%	62.7%	70.0%

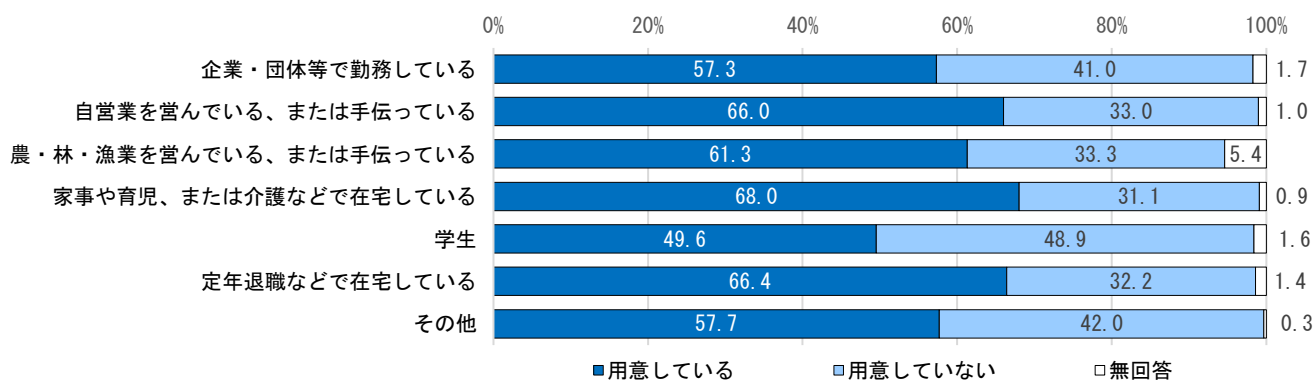
- 非常持出品を用意している人について、「29歳以下(66.8%)」、「30歳代(66.1%)」を除くすべての年代で7割を超えており、男女別でも大きな差はみられない。
- 備蓄を行わない理由として、「何をどれくらい買っておけば良いか分からないから(33.6%)」、「買っていても消費期限が来たら無駄になるから(28.5%)」で高くなっている。
- 家具などの転倒防止を行っていない理由として、「手間や費用がかかるから

(34.2%)」、「倒れそうな家具等はあるが、倒れても支障がないところに置いてあるから(28.2%)」で高くなっている。

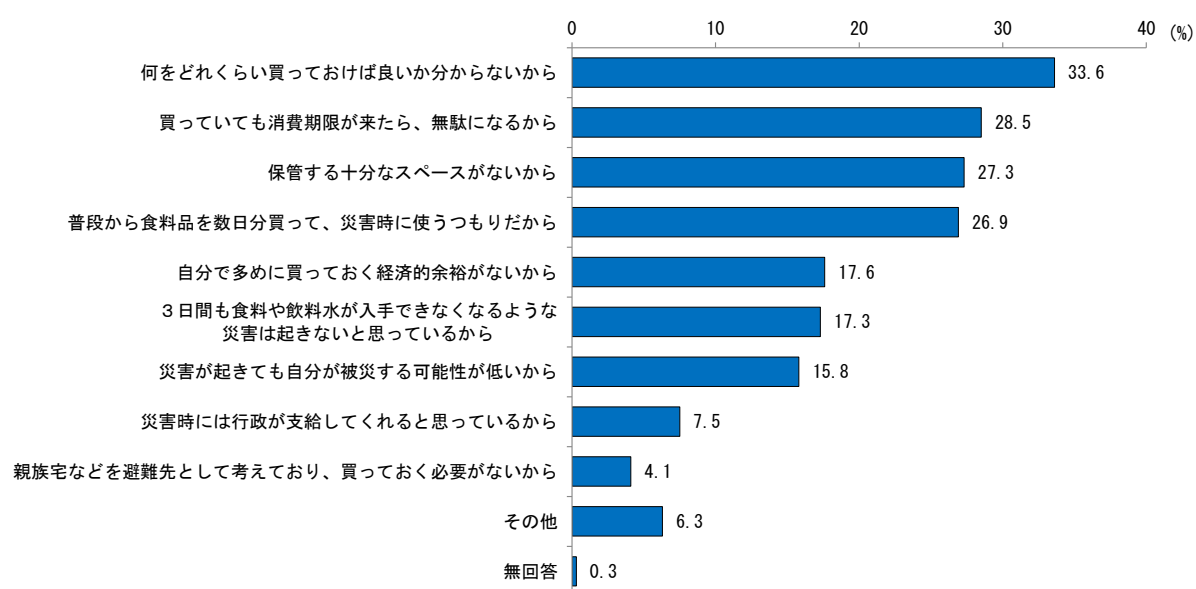
<非常持出品を用意している人の状況「年代別」>



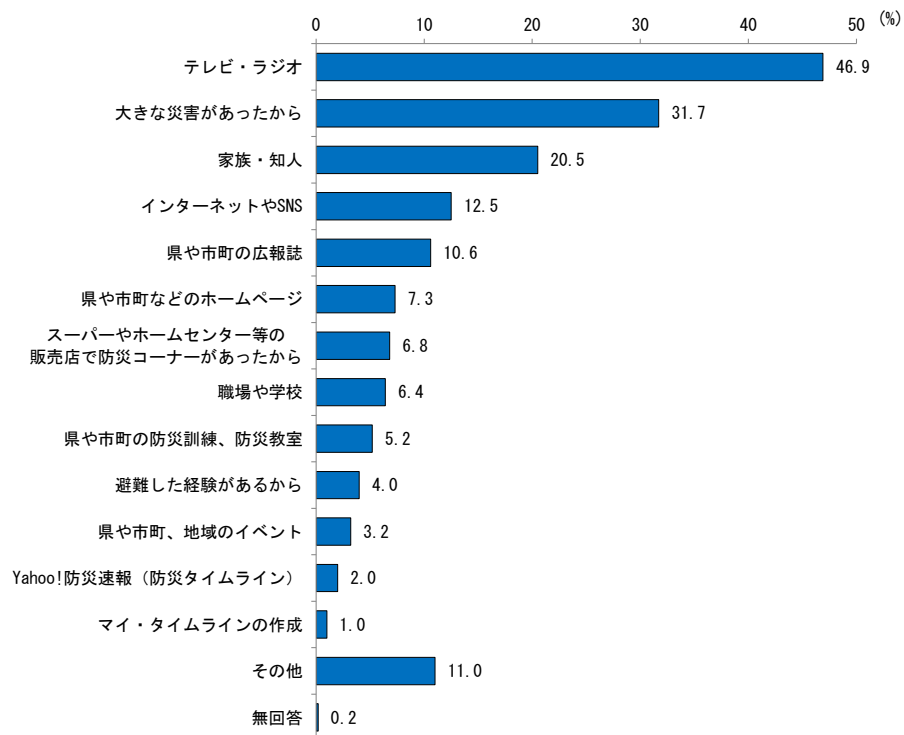
<非常持出品を準備し、かつ3日以上の食料品等の備蓄を用意している人の割合「生活形態別」>



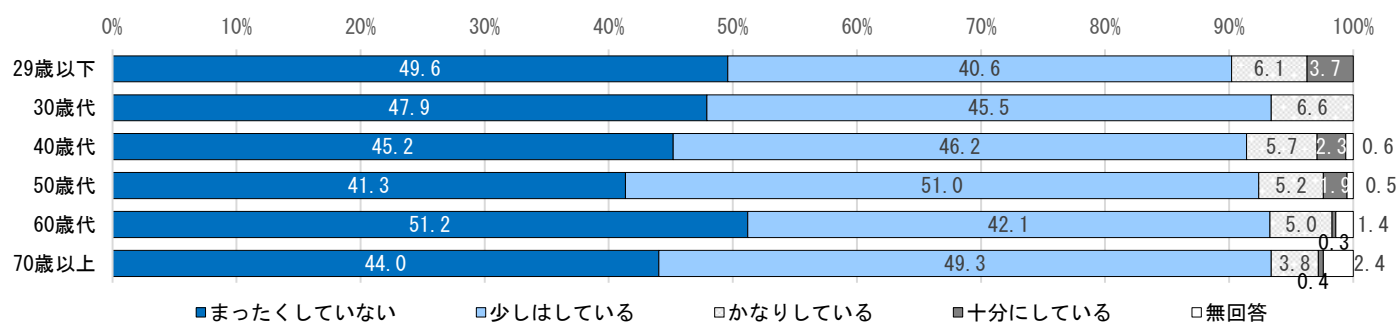
<備蓄を行わない理由>



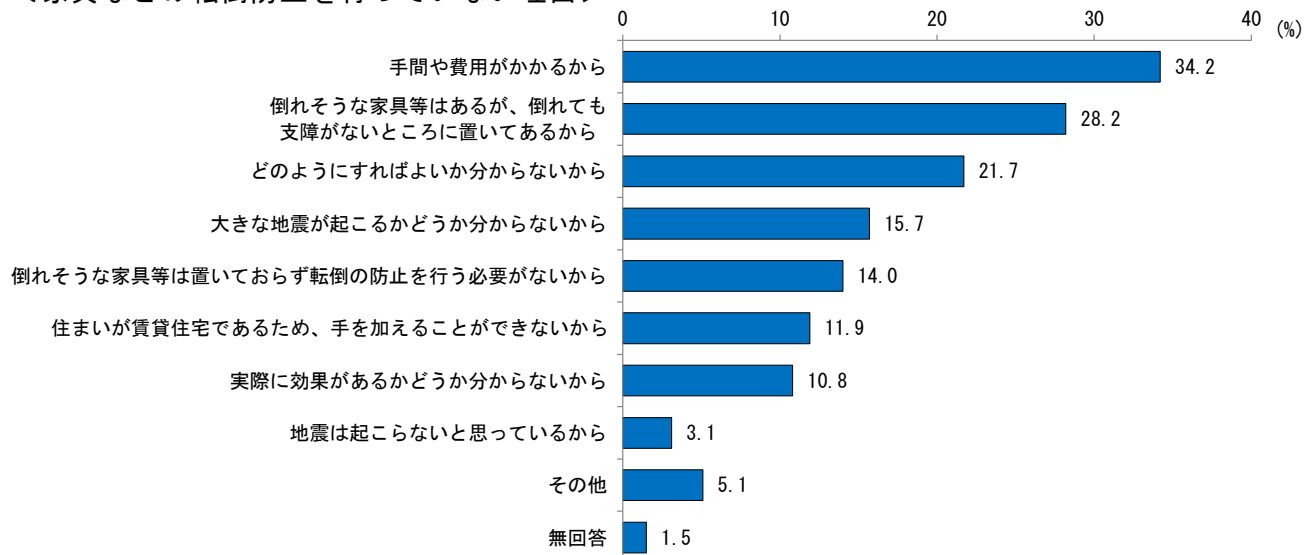
< 備蓄を行ったきっかけ >



< 家具などの転倒防止の実施状況「年代別」 >



< 家具などの転倒防止を行っていない理由 >



ア 有識者による分析や示唆など

- この項目が上昇した要因として、調査の直近で発生した能登半島地震の影響があったと考えられる。特に今回の地震は、震度7という規模や、津波、家屋倒壊等の被害が繰り返し報道され、県民に大きなインパクトを与えたといえる。
- 備蓄を行わない理由として「何をどれくらい買っておけばよいかわからない」という回答が多いため、引き続きこの点を明確にできるよう具体的な情報提示が必要である。備蓄を行ったきっかけとして「テレビ・ラジオ」「大きな災害があった」が高いことから、実際に大きな災害があった際などに、テレビ・ラジオ等で備蓄を呼びかけることが効果的であると思われる。
- また、備蓄を行わない理由として「3日も食料や飲料水が入手できなくなるような災害は起きない」「災害が起きても自分が被災する可能性が低い」がいずれも約16～17%、家具などの転倒防止を行わない理由として「大きな地震が起きるかどうかわからない」が約16%に上っている点は懸念される。自身の自宅が無事でも食料や飲料水が入手困難になることはあり得ること、大きな地震や災害はいつ起きても不思議ではないことなどを、根気よく啓発する必要がある。
- 家具などの転倒防止を行わない理由として、昨年度に引き続き「手間や費用がかかるから」が最多となっているため、少ない手間や費用で実施できる転倒防止策について具体的な情報発信が必要である。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 大きな災害があった際などには、時機を逃さずタイムリーに、あらゆる媒体を活用して非常持出品の用意や備蓄を呼びかける。
- ホームページ・SNSでの情報発信や報道機関との連携により、引き続き、備蓄品のローリングストック法や具体的品目・量、商品の紹介などの情報発信に取り組む。
- 小売店舗やホームセンター、家具販売店等の協力を得て、引き続き「備えるフェア」を実施し、来店者等に対して、備えの必要性の啓発や、非常持出品、備蓄品、転倒防止対策商品等の紹介を行う。また、「備えるフェア」の開催に合わせて、「みんなで減災」推進大使を活用したイベント等を開催し、非常持出品や備蓄品の備えを啓発する。

調 査 票

防災・減災に関するアンケートへのご協力をお願い

日頃から県行政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

広島県では、平成 26 年 8 月の土砂災害の教訓を踏まえ、県民の皆様お一人お一人に、いつ、どこで起きるかも分からない自然災害から、ご自分の命を守るための行動をとっていただくことができるよう、平成 27 年 4 月から、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を展開しています。

この運動の推進にあたり、防災・減災に関する県民の皆様の意識や行動内容及び情報の入手手段などの実態を把握して、今後の防災・減災対策に活かすため、概ね年に一度、防災・減災に関するアンケートを行うこととしております。

このアンケートは県内にお住まいの 18 歳以上の方 5,000 人を選挙人名簿から無作為に選んで行うものです。調査で得た結果はすべて統計的に処理をし、調査以外の目的では使用いたしませんので、皆様にご迷惑がかかることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、自然災害による死者ゼロの実現を目指し、この取組を今後、さらに効果的に進めていくため、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和 6 年 2 月

広島県危機管理監みんなで減災推進課

ご記入にあたってのお願い

- 質問は、全部で約 50 問あります。ご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。
ご本人の記入が難しい場合は、ご本人の意向を確認いただき、ご家族の方等がご記入ください。
- 調査票や封筒にあなたのご住所、お名前を記入する必要はありません。
- アンケートの所要時間は 15 分程度です。
- ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をしてください。選択肢で「その他」を選択した場合は（ ）内に内容を具体的にご記入ください。
- ご回答は、設問ごとに（○は 1 つ）（○はいくつでも）など指定されていますので、ご注意ください。
- 設問によって回答していただく方が限られる場合があります。説明文や矢印に従ってお進みください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）で **3 月 15 日（金）** までに投函してください。返送先は調査の実施・集計を委託している株式会社サーベイリサーチセンターになります。

広島県危機管理監みんなで減災推進課

住 所：〒730-8511 広島市中区基町 10 番 52 号

電 話：082-513-2781

FAX：082-227-2122

Eメール：kikigensai@pref.hiroshima.lg.jp

I あなたの災害に対する意識とご経験についてお尋ねします

問1 あなたは、市町が指定している避難場所のイメージをどう持たれていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

避難場所のイメージ	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
①トイレが不便	1	2	3	4
②プライバシーがない	1	2	3	4
③風呂に入れない	1	2	3	4
④エアコンが効かない	1	2	3	4
⑤自由に使える電源がない	1	2	3	4
⑥飲食物が手に入らない	1	2	3	4
⑦子供や高齢者等が居づらい	1	2	3	4
⑧授乳場所がない	1	2	3	4
⑨ペットを連れていけない	1	2	3	4
⑩不衛生である	1	2	3	4
⑪感染症（新型コロナウイルス感染症等）への対策がとられていない	1	2	3	4
⑫車での避難ができない	1	2	3	4

問2 あなたは、市町が指定している避難場所の設備の有無などについて、知っていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

	知っている	知らないが 知りたい	知らないし 知る必要が ない
①駐車場の有無や駐車可能な台数	1	2	3
②洋式トイレの有無や数	1	2	3
③エアコン設置の有無	1	2	3
④水や食料、シートや毛布などの備蓄品の種類 や量	1	2	3
⑤テレビやラジオの有無	1	2	3
⑥ペットの受け入れの可否	1	2	3
⑦風呂やシャワー設備の有無	1	2	3
⑧非常用電源の有無	1	2	3
⑨プライバシーの確保	1	2	3
⑩Wi-Fi 環境の有無	1	2	3

【問2で①～⑩のいずれかで1つでも「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問2-1 問2で「1 知っている」と回答した項目について、どのような方法で知りましたか。
(○はいくつでも)

- 1 インターネット（広島県防災ウェブ）
- 2 インターネット（広島県「みんなで減災」はじめての一步）
- 3 インターネット（市町ホームページ）
- 4 県や市町の防災情報メール
- 5 その他（ ）

【問2で①～⑩のいずれかで1つでも「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問2-2 避難場所の設備の有無等（問2-1で知った情報）について、該当する番号1つに○をつけてください。

- 1 現在の発信項目で十分
- 2 発信項目を充実させてほしい（下記に具体的な項目を記入）
（具体的な項目： ）

【全員にお尋ねします。】

問3 あなたのお住まいの地域では、どのような災害の危険性が想定されているか知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている → 問4～5へ
2 知りたいが知らない → 問6へ
3 知りたくない → 問6へ

【問3で災害の危険性について「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問4 あなたのお住まいの地域の災害の危険性の有無をどのようなきっかけで知りましたか。
(○はいくつでも)

- 1 自分でパソコンを使ったり、人に聞いたりして調べた
- 2 家族に聞いた（話し合った）
- 3 地域の方（個人、自主防災組織、消防団など）に教えてもらった
- 4 地域の住民ではない友人や知人に教えてもらった
- 5 市役所（町役場）の人に教えてもらった
- 6 職場で教えてもらった
- 7 学校で教えてもらった
- 8 マイ・タイムラインを作成する過程で知った
- 9 地域のイベント（防災講演会や避難訓練など）に参加した
- 10 自ら災害を経験した
- 11 家族（親戚）・知人が災害を経験した
- 12 その他（

※ マイ・タイムライン：自宅周辺の災害リスクを確認し、避難のタイミングや避難先などを整理するツール

【問3で災害の危険性について「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問5 災害の危険性を確認した方法をお答えください。(○はいくつでも)

- 1 県の防災Web や市町のホームページなどで公開されているハザードマップ^(※)
- 2 市町が紙に印刷して配布したハザードマップ^(※)
- 3 県の防災Web や市町のホームページなどで公開している震度分布図、揺れやすさマップ、土砂災害危険箇所図、土砂災害警戒区域図・特別警戒区域図、洪水・高潮・津波浸水想定区域図等
- 4 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 5 Yahoo!防災速報アプリ(防災タイムライン)
- 6 地域防災タイムライン^(※)
- 7 地域のイベント(防災講演会や避難訓練など)に参加した
- 8 実際に地域を歩いてみた
- 9 その他()

※ハザードマップ：自然災害(地震・津波・洪水・土砂災害等)による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被害想定区域や避難場所などを表示した市町が作成する地図

※地域防災タイムライン：個人の避難行動に関する内容(災害リスクの確認など)と災害時の地域住民相互での声掛けに関する内容(声掛け先など)を一体的に備えるツール

【全員にお尋ねします。】

問6 県や気象台が発表する次の防災気象情報について、知っている、あるいは聞いたことがあるものに○をしてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 洪水警報 | 4 大雨警報(土砂災害) |
| 2 ○○川氾濫危険情報 | 5 土砂災害警戒情報 |
| 3 ○○川氾濫発生情報 | 6 大雨特別警報(土砂災害) |
| | 7 いずれも聞いたことがない |

問7 あなたは、事前に避難のタイミングを決めていますか。(○は1つ)

- 1 高齢者等避難、避難指示などの避難情報が発令された時に避難することを決めている
- 2 大雨注意報、大雨警報などの気象情報が発表された時に避難することを決めている
- 3 水位などの周辺の状況で避難することを決めている
- 4 その他()
- 5 避難するタイミングを決めていない

【問7で1～4（避難するタイミングを決めている）のいずれかを回答した方にお尋ねします。】

問8 避難のタイミングを決めたきっかけは何ですか。（○はいくつでも）

- 1 自ら災害を経験した
- 2 家族（親戚）・知人が災害を経験した
- 3 自ら災害を経験していないが、災害に関する報道を見て避難のタイミングを決めることが必要と感じた
- 4 マイ・タイムラインを作成した
- 5 地域のイベント（防災講演会や避難訓練など）に参加した
- 6 学校で防災について学習した
- 7 職場で防災について話があった
- 8 地域の方（個人・自主防災組織・消防団）から話があった
- 9 その他（ ）

【全員にお尋ねします。】

問9 あなたは、実際に災害のおそれがあった際に、家族や親戚、近所の人や知人等に避難を促す声掛け（電話やメール、LINEでの連絡も含む）を行ったことがありますか。（○は1つ）

- 1 災害のおそれがある際には、毎回避難の声掛けを行っている
- 2 毎回ではないが、避難の声掛けを行ったことがある
- 3 これまで、避難の声掛けを行っていない

問10 あなたは、災害のおそれがある際に、誰に避難の声掛け（電話やメール、LINEでの連絡も含む）を行うかを決めていますか。（○は1つ）

- 1 決めている
- 2 決めていない

Ⅱ あなたの災害に対する備えや災害時の行動についてお尋ねします

問1 あなたがお住まいの地域は、水害・土砂災害の危険性がありますか。お住まいが該当する区域に立地するかお答えください。(①、②各項目で○は1つ)

	自宅が区域に 立地している	自宅は区域に 立地していない	分からない
① 洪水浸水想定区域	1	2	3
② 土砂災害警戒区域 土砂災害特別警戒区域	1	2	3

問2 あなたは、災害の危険性（土砂災害や洪水）に応じた避難先や、どの道を通して避難するか確認を行っていますか。（○は1つ）

- 1 まったくしていない → 問2-1へ
2 少しはしている
3 かなりしている } 問2-2へ
4 十分にしている

【問2で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問2-1 今後「避難先や、どの道を通して避難するか確認」をしようと思いますか。
(○は1つ)

- 1 今後しようと思う 2 今後もしようと思わない

【問2で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問 2-2 「避難先や、どの道を通して避難するか」をどのような方法で確認しましたか。
(○はいくつでも)

- 1 市町が配布したハザードマップ
- 2 県のホームページや国や市町などのホームページ
- 3 スマートフォンなどに登録したアプリ（Yahoo!防災速報アプリ）
- 4 スマートフォンなどに登録したアプリ（ひろしま避難誘導アプリ「避難所へ Go!」）
- 5 スマートフォンなどに登録したアプリ（その他のアプリ）
- 6 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 7 地域の方（個人、自主防災組織、消防団など）から教えてもらった
- 8 市役所（町役場）の人から聞いた
- 9 地域の行事、イベント（防災講演会や避難訓練など）
- 10 その他（ ）

【全員にお尋ねします。】

問3 あなたは、災害のおそれがある際や地域行事等の際に、市町が指定する避難場所に行ったことがありますか。(〇はいくつでも)

- 1 災害のおそれがある際に、市町が指定する避難場所に避難したことがある
- 2 地域行事(お祭り、運動会、避難訓練等)の際に、市町が指定する避難場所となる施設に行ったことがある
- 3 市町が指定する避難場所に行ったことがない

問4 あなたは、避難先を2か所以上決めていますか。また、避難先までどの道を通って避難するか確認を行っていますか。なお、避難先は、市町が指定している避難場所でなくとも、安全な場所(親族・知人宅、宿泊施設など)であれば構いません。(〇は1つ)

- 1 2か所以上決めており、どの道を通るか確認も行っている
- 2 2か所以上決めているが、どの道を通るか確認は行っていない
- 3 1か所だけ決めている
- 4 まったく決めていない

問5 災害が起こりそうな場合に、気象情報(大雨警報など)、避難情報などの防災情報をどのような方法で入手していますか。(〇はいくつでも)

- 1 テレビ
- 2 テレビのデータ放送
- 3 ラジオ
- 4 インターネット(気象庁やNHKのホームページなど)
- 5 県や市町の防災情報メール
- 6 市町の防災無線
- 7 スマートフォンなどに登録したアプリ(Yahoo!防災速報アプリ)
- 8 スマートフォンなどに登録したアプリ(その他のアプリ)
- 9 ツイッターやフェイスブックなどのSNS
- 10 町内の人や消防団等からの連絡
- 11 固定電話向けの一斉電話伝達サービス
- 12 その他()
- 13 入手していない

【問5で「4 インターネット」と回答した方にお尋ねします。】

問5-1 防災情報をインターネットで入手する際、次のサイト等を利用したことはありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 広島県防災 Web | 4 津波・高潮災害ポータル |
| 2 広島県河川防災情報システム | 5 広島県ため池マップ |
| 3 土砂災害ポータルひろしま | 6 Yahoo!大雨警戒レベルマップ |

(○は1つ)

- (○はいくつでも)

- | | | | |
|---|---|---|-------|
| 1 | 県や市町の防災メール | } | 問7-1へ |
| 2 | Yahoo!防災速報アプリ | | |
| 3 | NHK ニュース・防災アプリ | | |
| 4 | 市町が提供するアプリ（ひろしま避難誘導アプリ「避難所へGo!」など） | | |
| 5 | その他（ ） | } | 問7-2へ |
| 6 | 登録していないが、今後しようと思う | | |
| 7 | 登録していないし、今後もしようと思わない | | |

(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 10 マイ・タイムラインの作成 |
| 2 テレビ・ラジオ | 11 県や市町の防災訓練、防災教室 |
| 3 県や市町の広報誌 | 12 職場や学校 |
| 4 新聞の記事や特集 | 13 家族 |
| 5 新聞折り込み広告 | 14 地域の人 |
| 6 防災情報メール・防災アプリを紹介したチラシ | 15 知人（地域の人以外） |
| 7 インターネット広告 | 16 携帯電話・スマートフォン、タブレット端末等の販売店 |
| 8 ツイッターやフェイスブックなどのSNS | 17 その他（ ） |
| 9 県や市町、地域のイベント | |

1 登録方法が分からないから	5 通知の回数が多すぎるから
2 登録方法が複雑で面倒だから	6 防災以外に役立つ情報が少ないから
3 住んでいる場所が安全なため登録する必要性がないから	7 通信料がかかるから
4 防災に関心がないから	8 その他（ ）

【全員にお尋ねします。】

問 8 あなたは現在、3 日分以上の食料や飲料水を買置き（備蓄）していますか。（○は 1 つ）

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 まったくしていない | → 問 8-1 へ |
| 2 少しはしている | } 問 8-2 へ |
| 3 かなりしている | |
| 4 十分にしている | |

【問 8 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 8-1 買置きをしていないのは、なぜですか。（○はいくつでも）

- 1 親族宅などを避難先として考えており、買っておく必要がないから
- 2 普段から食料品を数日分買って、災害時に使うつもりだから
- 3 自分で多めに買っておく経済的余裕がないから
- 4 何をどれくらい買っておけば良いか分からないから
- 5 災害が起きても自分が被災する可能性が低いから
- 6 買っていても消費期限が来たら、無駄になるから
- 7 保管する十分なスペースがないから
- 8 3 日間も食料や飲料水が入手できなくなるような災害は起きないと思っているから
- 9 災害時には行政が支給してくれると思っているから
- 10 その他（ ）

【問 8 で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問 8-2 「3 日分以上の食料や飲料水の買置き」を行ったきっかけは、なんですか。

（○はいくつでも）

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 インターネットや SNS
- 5 県や市町、地域のイベント
- 6 県や市町の防災訓練、防災教室
- 7 マイ・タイムラインの作成
- 8 Yahoo!防災速報（防災タイムライン）
- 9 職場や学校
- 10 家族・知人
- 11 スーパーやホームセンター等の販売店で防災コーナーがあったから
- 12 避難した経験があるから
- 13 大きな災害があったから
- 14 その他（ ）

【全員にお尋ねします。】

問9 あなたは、現在、食料と飲料水以外の防災グッズ（懐中電灯、携帯・スマホの充電器など
（※））の準備を行っていますか。（○は1つ）

※これらは例示なので、あなたご自身や、あなたのご家族が必要とする防災グッズを準備している場合は「している」（2～4のいずれか）を選択してください。

- 1 まったくしていない → 問9-1へ
2 少しはしている
3 かなりしている } 問10へ
4 十分にしている

【問9で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問9-1 準備をしていないのは、なぜですか。(○はいくつでも)

- 1 親族宅などを避難先として考えており、準備する必要がないから
- 2 自分で準備する経済的余裕がないから
- 3 何をどれくらい備えればよいか分からないから
- 4 災害が起きても自分が被災する可能性が低いから
- 5 備えていても使用期限が来たら、無駄になるから
- 6 保管する十分なスペースがないから
- 7 物資を入手できなくなるような災害は起きないと思っているから
- 8 災害時には行政が支給してくれると思っているから
- 9 その他（

【全員にお尋ねします。】

問 10 あなたが、防災について学んだり、地域、職場、あるいは学校で、防災教室や防災訓練、イベント等に参加した内容をお答えください。(〇はいくつでも)

- 1 地域のイベントや行事（防災訓練など）
- 2 職場、または学校の行事や研修、防災訓練等
- 3 県が実施している6月の「一斉防災教室※¹」、または、11月の「一斉地震防災訓練※²」
- 4 マイ・タイムラインの作成
- 5 防災に関する講演会や防災フェアなどのイベント
- 6 防災について取り上げたテレビ番組を見た
- 7 防災について取り上げた新聞、雑誌、チラシ等を見た
- 8 インターネットで調べた
- 9 スマートフォンなどに登録したアプリで調べた
- 10 近所同士・知人と防災について話した
- 11 家族で防災について話した
- 12 その他（ ）
- 13 上記のいずれにも参加していない → 問 10-1 へ

※1 一斉防災教室：県が作成した教材をもとに災害危険箇所、避難場所及び避難経路の確認や状況に応じた避難行動などを身につけていただくため、昨年5～6月にかけて行った取組

※2 一斉地震防災訓練：県が作成した教材をもとに、昨年11月に行った、地震から命を守るための行動をとる訓練

【問 10 で「13 上記のいずれにも参加していない」と回答した方にお尋ねします。】

問 10-1 防災教室や防災訓練、イベント等に参加されなかったのは、なぜですか。

(〇はいくつでも)

- 1 時間が長いため
- 2 内容についてはすでに理解しているから
- 3 敷居が高く、参加しにくい雰囲気があるから
- 4 参加する必要性がないから
- 5 関心がないから
- 6 具体的にどのようなことをするものなのか分からないから
- 7 参加者が限定されているから
- 8 参加しても、いざというときに役立つかどうか疑わしいから
- 9 仕事や家事、育児で忙しかったから
- 10 新型コロナ等感染症の感染が怖いから
- 11 その他（ ）
- 12 実施していることを知らなかったから
- 13 地域で開催されていないから

【全員にお尋ねします。】

「マイ・タイムライン」は、自宅周辺の災害リスクを確認し、避難のタイミングや避難先などを整理するツールです。

※同種のものであれば「マイ・タイムライン」という名称でなくてもよいです。

（例）広島市「たちまち防災」の付録「わが家の避難シート」

福山市水害ハザードマップの情報面「わが家のマイ・タイムライン」など

問 11 あなたは、「マイ・タイムライン」を知っていましたか。（○は1つ）

1 知っていた → 問 12 へ

2 知らなかった → 問 13 へ

【問 11 でマイ・タイムラインを「1 知っていた」と回答した方にお尋ねします。】

問 12 あなたが知っていた「マイ・タイムライン」は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 ひろしまマイ・タイムライン（冊子版）
- 2 ひろしまマイ・タイムライン（WEB 版）
- 3 Yahoo!防災速報アプリの防災タイムライン
- 4 地域防災タイムライン
- 5 その他（ ）

【問 12 で「1 ひろしまマイ・タイムライン（冊子版）」「2 ひろしまマイ・タイムライン（WEB 版）」と回答した方にお尋ねします。】

問 12-1 「ひろしまマイ・タイムライン」をどこで知りましたか。（○はいくつでも）

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 7 子供が学校から持って帰ってきた |
| 2 テレビ・ラジオ | 8 職場や学校 |
| 3 県や市町の広報誌 | 9 家族 |
| 4 県や市町の防災教室 | 10 地域の人 |
| 5 県の SNS（ツイッター、フェイスブックなど） | 11 知人（地域の人以外） |
| 6 県以外の SNS | 12 その他（ ） |

【問 12 で「3 Yahoo!防災速報アプリの防災タイムライン」と回答した方にお尋ねします。】

問 12-2 「防災タイムライン」をどこで知りましたか。（○はいくつでも）

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 8 県以外の SNS |
| 2 テレビ・ラジオ | 9 職場や学校 |
| 3 インターネット広告（ヤフー、グーグルなど） | 10 家族 |
| 4 新聞の記事や特集 | 11 地域の人 |
| 5 新聞折り込みチラシ | 12 知人（地域の人以外） |
| 6 防災タイムラインの作成方法が記載されたチラシ | 13 その他（ ） |
| 7 県の SNS（ツイッター、フェイスブックなど） | |

【全員にお尋ねします】

問 13 あなたのご家庭では、マイ・タイムラインを作成していますか。あなたご自身でなくても、同居しているご家族のどなたかが作成している場合は「作成している」とお答えください。

※「マイ・タイムライン」という名称でなくても自宅周辺の災害リスクの確認、避難のタイミング、避難場所などを確認している方は、「1 作成している」を選択してください。

(○は1つ)

- 1 作成している → 問 13-1 へ
- 2 作成していない → 問 14 へ

【問 13 でマイ・タイムラインを「1 作成している」と回答した方にお尋ねします。】

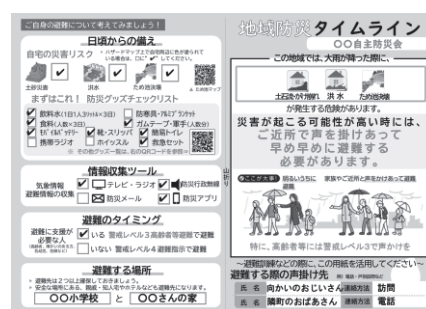
問 13-1 あなたが作成した「マイ・タイムライン」は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 ひろしまマイ・タイムライン (冊子版)
- 2 ひろしまマイ・タイムライン (WEB 版)
- 3 Yahoo!防災速報アプリの防災タイムライン
- 4 地域防災タイムライン
- 5 その他 ()

例：広島市の「わが家の避難シート」、家族で話し合った など



【ひろしまマイ・タイムライン】



【地域防災タイムライン】

【問 13-1 で「1 ひろしまマイ・タイムライン (冊子版)」「2 ひろしまマイ・タイムライン (WEB 版)」と回答した方にお尋ねします。】

問 13-2 あなたが「ひろしまマイ・タイムライン」を作成しようと思ったきっかけは何ですか。

(○はいくつでも)

- 1 子供が学校から持って帰ってきたから、または子供が作りたいと言ったから
- 2 もともとマイ・タイムラインに関心があったから
- 3 防災教室や防災講演会などで作ることを勧められたから
- 4 広島県が作成を推奨していることを知ったから
- 5 人から作成することを誘われたから
- 6 災害に関する報道を見て必要だと思ったから
- 7 引っ越しなどで環境が変わったから
- 8 その他 ()

【問 13－1 で「1 ひろしまマイ・タイムライン（冊子版）」「2 ひろしまマイ・タイムライン（WEB 版）」と回答した方にお尋ねします。】

問 13－3 「ひろしまマイ・タイムライン」を作成してどう感じましたか。（○はいくつでも）

- 1 簡単に作成できた
- 2 作成するのが大変難しかった
- 3 作成するのに大変な時間がかかった
- 4 災害が起こりそうなときに参考にしたら、適切な避難ができると感じた
- 5 作成する過程で、防災に関するさまざまな知識を得た
- 6 適切に作れているか不安である
- 7 災害時に本当に役立つか疑わしい
- 8 その他（ ）

【問 13－1 で「4 地域防災タイムライン」と回答した方にお尋ねします。】

問 13－4 地域防災タイムラインを作成してどう感じましたか。（○はいくつでも）

- 1 簡単に作成できた
- 2 作成するのが大変難しかった
- 3 作成するのに大変な時間がかかった
- 4 災害が起こりそうなときに参考にしたら、適切な避難ができると感じた
- 5 作成する過程で、防災に関するさまざまな知識を得た
- 6 適切に作れているか不安である
- 7 災害時に本当に役立つか疑わしい
- 8 その他（ ）

【問 13 でマイ・タイムラインを「2 作成していない」と回答した方にお尋ねします。】

問 14 作成しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

- 1 マイ・タイムラインを知らなかった
- 2 自宅が安全な場所にある
- 3 マイ・タイムラインを作成しなくても、自宅周辺の災害リスクや避難先、避難のタイミングなどは頭に入っている
- 4 マイ・タイムラインは知っていたが、自分が作成することは考えたことがなかった
- 5 マイ・タイムラインは知っていたが、具体的にどんなものかはよく分かっていなかった
- 6 マイ・タイムラインが役に立つかどうか分からなかった
- 7 興味はあったが、作成するのが面倒だった
- 8 興味はあったが、作成する時間がなかった
- 9 作成したかったが、どうやって教材を入手したら良いか分からなかった
- 10 調べてみると作成方法が難しそうだった
- 11 作成に必要なアカウント登録や ID の取得が煩雑だった
- 12 作り方が難しく途中で作成を諦めた
- 13 その他（ ）

【問 13 でマイ・タイムラインを「2 作成していない」と回答した方にお尋ねします。】

問 14-1 あなたは、これからマイ・タイムラインを作成しようと思いますか。(○は1つ)

- 1 作成しようと思う
- 2 作成する必要性がわからないので、作成しようと思わない
- 3 必要だと思うが、作成するのが面倒なので、作成しようと思わない
- 4 わからない

【全員にお尋ねします。】

問 15 あなたは、今現在、家具などの転倒の防止^(※)を行っていますか。(○は1つ)

※家具などの転倒の防止…金具や突っ張り棒、ベルト等による家具固定、転倒防止板の挟み込みなどによる対策のほか、寝室にはできるだけ家具を配置しないなど、地震によって家具等の下敷きにならないための備えも含む

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 まったくしていない | → 問 15-1、問 15-2 へ |
| 2 少しはしている | } 問 15-3 へ |
| 3 かなりしている | |
| 4 十分にしている | |

【問 15 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 15-1 家具などの転倒防止を行っていないのはなぜですか。(○はいくつでも)

- 1 倒れそうな家具等は置いておらず転倒の防止を行う必要がないから
- 2 どのようにすればよいか分からないから
- 3 大きな地震が起こるかどうか分からないから
- 4 手間や費用がかかるから
- 5 実際に効果があるかどうか分からないから
- 6 倒れそうな家具等はあるが、倒れても支障がないところに置いてあるから
- 7 地震は起こらないと思っているから
- 8 住まいが賃貸住宅であるため、手を加えることができないから
- 9 その他 ()

【問 15 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 15-2 今後、家具などの転倒防止を行おうと思いますか。(○は1つ)

- 1 今後しようと思う
- 2 今後もしようと思わない

【問15で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問 15-3 家具などの転倒の防止を行ったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 インターネットや SNS
- 5 県や市町、地域のイベント
- 6 県や市町の防災教室、防災訓練
- 7 職場や学校
- 8 家族
- 9 地域の人
- 10 知人（地域の人以外）
- 11 ホームセンター等の販売店で防災コーナーがあったから
- 12 避難した経験があるから
- 13 大きな災害があったから
- 14 その他（ ）

Ⅲ あなたのことについてお尋ねします

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- 1 男性 2 女性 3 その他

問2 あなたの年齢はいくつですか。(令和6年2月1日時点)

() 歲

問3 令和6年2月1日時点で、あなたはどちらにお住まいでしたか。

	市区町	町丁目・大字くらいまでお書きください	丁目 大字
--	-----	--------------------	----------

問4 主としてどのような生活形態ですか。(○は1つ)

- 1 企業・団体等で勤務している（正規の従業員、パート、派遣社員など）
- 2 自営業を営んでいる、または手伝っている
- 3 農・林・漁業を営んでいる、または手伝っている
- 4 家事や育児、または介護などで在宅している
- 5 学生
- 6 定年退職などで在宅している
- 7 その他（ ）

問5 現在のあなたの世帯の人数はあなたを含め何人ですか。

()人

問6 現在、あなたご自身を含め、同居しているご家族の中に、次の方やペットがいますか。

(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|----------|----|--------------------|
| 1 | 80 歳以上の人 | 9 | 小学1 年生 |
| 2 | 高校生 | 10 | 未就学児童（3～5 歳） |
| 3 | 中学生 | 11 | 乳児（3 歳未満） |
| 4 | 小学6 年生 | 12 | 障がいのある人もしくは体が不自由な人 |
| 5 | 小学5 年生 | 13 | 妊婦 |
| 6 | 小学4 年生 | 14 | 病気の人 |
| 7 | 小学3 年生 | 15 | ペット |
| 8 | 小学2 年生 | 16 | いずれもない |

(○は1つ)

